

都市再生整備計画 事後評価シート

小川通周辺地区

平成30年3月

京都府京都市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	京都府	市町村名	京都市	地区名	小川通周辺地区			面積	19ha
交付期間	平成24年度～平成28年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業者	328百万円	国賛率	0.4		

1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、 実施した事業	事業名		
		基幹事業	高質空間形成施設(美装化舗装、道路照明灯、電線類地下埋設施設) 地域生活基盤施設(フェンス)	
	提案事業	地域創造支援事業(無電柱化整備)、事業活用調査(歩行者交通量調査、地域住民満足度調査)		
		事業名		削除/追加の理由
	当初計画 から 削除した 事業	基幹事業		
	新たに追加し た事業	基幹事業	地域生活基盤施設(広場整備)	地元要望を踏まえて追加した。
	交付期間 の変更	当 初	平成24年度～平成27年度	交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響
		変 更	平成24年度～平成28年度	

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定期間
		単位	基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
指標1	小川通の歩行者数	人	424	H23	500	H28		578	○	あり なし	小川通がわいの歴史的文化的な特徴を活かした景観整備は、小川通りの歩行者数及び景観的魅力を向上させ、来光客等、通りの利用者の増加に貢献し、地域の賑わい創出につながった。	なし
指標2	市民の景観に対する満足度	%	4	H23	65	H28		95	○	あり なし	小川通がわいの歴史的文化的な特徴を活かした景観整備の地中央化や道路の條理整備は、歩行環境の向上、通りの景観的魅力の向上に貢献し、地区住民の景観に対する満足度向上につながった。	なし
指標3										あり なし		
指標4										あり なし		
指標5										あり なし		

4) 定性的な効果 発現状況	実施内容			実施状況	今後の対応方針等
5) 実施過程の評価	モニタリング			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
	住民参加 プロセス			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
	持続的なまちづくり 体制の構築			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	

様式2-2 地区の概要

小川通周辺地区(京都府京都市) 都市再生整備計画事業の成果概要

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区的名称(当該地区的次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他(事業期間)	●		平成24年度～平成27年度	平成24年度～平成28年度	平成24年度から電線類地下埋設施設(高気空間形成施設)の整備に着手したが、地元との調整に時間を要したため。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利 用システム									
地域生活基盤 施設	広場整備、フェンス	2	A=260m ²	3	A=530m ²	工事箇所の追加(南側広場)及び工事 内容の変更に伴う事業費増	影響なし	●	
高質空間形成 施設	美装化舗装	30	A=1200m ²	52	A=1200m ²	舗装の種別(グレード)の変更に伴う 事業費増	影響なし	●	
	道路照明灯	8	N=10基	8	N=11基	照明灯本数の変更	影響なし	●	
	電線類地下埋設施設 (要請者負担方式)	136	L=250m	168	L=250m	設計変更に伴う事業費増	影響なし	●	
高次都市施設									
既存建造物活 用事業									
都市再生交通 拠点整備事業									
土地区画整理 事業(都市再 生)									
住宅市街地 総合整備事業									

※1: 事業費の大額変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1. 事業費の大額変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

※1:事業費の大額変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標		単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)	目標値 (ウ)	目標年度 (エ)	数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度	基準年度								あり	なし
指標1	小川通の歩行者数	人	電線類を地中化し、道路修景整備を行った小川通において、歩行者数を調査(計測)する。	—	—	424	H23	500	H28	モニタリング			モニタリング	
										事後評価	確定見込み	●	578	事後評価 ○
指標2	市民の景観に対する満足度	%	住民等を対象にした景観に関するアンケート調査を実施し、「景観が良い」と回答した割合を算出する。	—	—	4	H23	65	H28	モニタリング			モニタリング	
										事後評価	確定見込み	●	95	事後評価 ○
指標3										モニタリング			モニタリング	
										事後評価	確定見込み			事後評価
指標4										モニタリング			モニタリング	
										事後評価	確定見込み			事後評価
指標5										モニタリング			モニタリング	
										事後評価	確定見込み			事後評価

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	電線類を地中化し、道路修景整備の完了後に実施した歩行者数調査において、通過歩行者数が目標値を上回ったため。	
指標2	整備後のアンケート調査において、住民等の景観に対する満足度が目標値を満たしたため。	
指標3		
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことという。

※2 目標達成度の記入方法

○ :評価値が目標値を上回った場合

△ :評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× :評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)	基準 年度	数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)	
			基準 年度	基準 年度			モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価		
その他の数値指標1							モニタリング	確定 見込み				
							事後評価	確定 見込み				
その他の数値指標2							モニタリング	確定 見込み				
							事後評価	確定 見込み				
その他の数値指標3							モニタリング	確定 見込み				
							事後評価	確定 見込み				

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のこという。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

--

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	なし	
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	なし	
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	なし		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係課会議	建設局 建設企画部 建設企画課 建設局 道路建設部 道路環境整備課	平成30年2月16日	建設局 道路建設部 道路環境整備課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	事業名・箇所名	指標の種別	指標1	指標2	指標○	指標○
		指標名	小川通の歩行者数	市民の景観に対する満足度	総合所見	総合所見
基幹事業	地域生活基盤施設【広場整備、フェンス】	○	小川通界隈の歴史的 文化的特性を活かした景 観整備は、小川通の歩行 環境及び景観的魅力を向 上させ、観光客等、通り の利用者の増加に貢献し、 地域の賑わい創出につながった。	◎	小川通界隈の歴史的 文化的特性を活かした電 線類の地中化や道路の 修景整備は、歩行環境の 向上、通りの景観的魅力 の向上に貢献し、地区住 民等の景観に対する満足 度向上につながった。	
	高質空間形成施設【美装化舗装(石畳風アスファルト舗装)】	○		◎		
	高質空間形成施設【道路照明灯】	○		◎		
	高質空間形成施設【電線類地下埋設施設】	○		◎		
				—		
提案事業	地域創造支援事業【無電柱化整備】	○		◎		
	事業活用調査【歩行者数交通量調査】	—		—		
	事業活用調査【地域住民満足度調査】	—		—		
関連事業						

※指標改善への貢献度

◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。

－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	観光資源等の発信などにより、地域の更なる賑わい創出化を目指していく。	景観整備された街並みを保全していくため、打ち水を行う取組を継続してもらうなど、地域住民の意識の醸成を図っていく。		
-------	------------------------------------	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標○		指標○		指標○		指標○		指標○	
指標名											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度
基幹事業											
提案事業											
関連事業											

※目標未達成への影響度

××:事業が効果を発揮せず、

△:指標の目標未達成の直接的な原因となった。

×:事業が効果を発揮せず、

△:指標の目標未達成の間接的な原因となった。

△:数値目標が達成できなかつた中でも、

ある程度の効果をあげたと思われる。

-:事業と指標の間には、とともに関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

分類I:内的な要因で、予見が可能な要因。

分類II:外的な要因で、予見が可能な要因。

分類III:外的な要因で、予見が不可能な要因。

分類IV:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)					
------------------	--	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
府内関係課会議	建設局 建設企画部 建設企画課 建設局 道路建設部 道路環境整備課	平成30年2月16日	建設局 道路建設部 道路環境整備課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
小川通は電線・電柱により景観が阻害されていることから、道路修景等を行なうことで、京都の伝統文化である茶道に関わる人々の日々の営みが醸し出す町並みを生かした風情や品格のある豊かな地域づくりを推進することが重要である。	電線類の地中化や舗装の美化により、歴史的街並みの保全、賑わいの創出を図ることができた。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	歴史的街並みの保全及び賑わいの創出	本事業で整備した施設の改変等(占用企業者による道路掘削等)が生じた場合、速やかな復旧を行うことで、街並みの景観保全を図る。	施設管理者による適正な維持管理

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業

フローラップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■ 様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に問わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・從前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		従前値 単位	年度	目標値 年度	評価値		目標 達成度	1年以内 の達成見込みの 有無
指標1	小川通の歩行者 数				確定	●		
指標2	市民の景観に対 する満足度	人	424 H23	500 H28	見込み	●	○	あり なし
					確定	●	○	あり なし
指標3			H	H	見込み	●	○	あり なし
					確定	●	○	あり なし
指標4			H	H	見込み	●	○	あり なし
					確定	●	○	あり なし
指標5			H	H	見込み	●	○	あり なし
					確定	●	○	あり なし

フォローアップ計画		
予定時期	計測方法	その他特記事項

その他の 数値指標1		H			確定			
					見込み			
その他の 数値指標2		H			確定			
					見込み			
その他の 数値指標3		H			確定			
					見込み			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	数値目標を客観的に評価できる目標とすることにより、明確に成果の達成が判断できた。	数値目標については、客観的に評価できる目標とすることで、成果の達成が明確となる。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区的名称(当該地区的次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに記載	平成30年3月7日～3月21日	平成30年3月7日～3月21日		
広報掲載・回覧・個別配布				担当課への郵便、FAX、電子メールなど	建設局 道路建設部 道路環境整備課
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	なし
-------	----

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
京都大学大学院工学研究科 助教 大庭 哲治	平成30年2月21日	建設局 道路建設部 道路環境整備課

有識者の意見	【①効果発現要因について】 ・効果については、短期間で発現するものだけではなく、長期にわたり徐々に発現するものもあるが、本事業では、交付期間の最終年度、又は交付期間の翌年度に事後評価を公表する必要があることから、短期間での効果を捕捉できる指標の設定で問題はない。また、過去の類似事業を参考とした、わかりやすい指標となっており、指標及び数値目標の設定に関しては妥当であると考える。 ・広場整備におけるデザインや色については、地域住民の方の意見を反映させることが重要である。手法としてワークショップである必要はないが、事前に地域住民の方の意見をアンケートやヒアリング等で確認すべきであったと考える。
	【②今後のまちづくり方策について】 ・景観整備されたまち並みを維持するため、地域住民の方が率先して行う取組を自治体がサポートするなどのソフト的な取組と、道路管理者及び道路占用企業者等によるハード的な取組の両面からの取組が必要であると考える。
	【③その他】 ・コスト管理の観点からも、事前に地域住民の方とコミュニケーションが図られていれば、事業費の変更増はなかったのではないかと思われる。 ・10年、20年後の長期的な事業効果を検証できるような評価体制や効果検証の仕組みの構築が必要である。

都市再生整備計画

お が わ どおりしゅうへん ち く
小川通周辺地区

(第3回変更)

きょうとふ きょうとし
京都府 京都市

平成30年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	京都府	市町村名	京都市	地区名	小川通周辺地区	面積	19 ha
計画期間	平成 24 年度	～	平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度	～	平成 28 年度

目標

大目標：無電柱化事業及び舗装の美装化、景観に配慮した道路照明灯の設置等により、歴史的文化的特性を活かした景観整備を行い、風情や品格のある豊かな地域づくりを推進する。

目標1：無電柱化や広場のフェンスの整備等により、安心安全で美しいまちの実現を目指す。

目標2：舗装の美装化及び景観に配慮した道路照明灯の設置等により、歴史的文化的特性を活かした景観整備を行う。

目標3：歩行者が安心して円滑にまちなみ散策を楽しめる環境整備を行うと共に、観光資源の賑わいを再生する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

当地区は、千利休の子孫が居を構えたことにより、日本の茶道文化の中心ともいえる場所となった京都の歴史を体現する地の一つである。また、織屋、商家と寺社や茶道家の門構えが地域固有の町並みを構成しており、他では見られない風雅な景観を有する地域として、上京小川歴史的景観保全修景地区に指定されており、近隣には裏千家今日庵、宝鏡寺門跡(人形寺)、日蓮宗大本山妙顯寺、同本山本法寺(長谷川等伯、本阿弥光悦所縁の寺)など重要な史跡等が集中している。

しかしながら、当地区的中心に位置する小川通(一般市道 油小路通)は、幅員3m~8mの歩道の無い道に電柱が立ち、景観を損ねており、地元(茶道家)からも景観向上のため電線類を地中化するよう要望がある。

以上のことから、景観を阻害している電柱・架空電線類を取り除き、舗装や道路照明灯の美装化等を行うことで、歴史都市京都にふさわしい景観の保全再生、観光資源の賑わいの再生を図る必要がある。

課題

-小川通は電線・電柱により景観が阻害されていることから、道路修景等を行うことで、京都の伝統文化である茶道に関わる人々の日々の営みが醸し出す町並みを生かした風情や品格のある豊かな地域づくりを推進することが重要である。

将来ビジョン(中長期)

-地域住民がゆとりを持って暮らせるうるおいのある京の町づくりのために、道路環境の改善を進め、歴史都市・京都にふさわしいまちづくりを図る。

-小川通界隈の歴史的文化的特性を活かし、歩く魅力がある「歩くまち・京都」の実現を図る。

-「京都市基本計画」(平成22年12月策定)において、「1200年の歴史・文化を実感でき、世界のひとつと魅了し続けるまちとなる」ため、無電柱化や町並み景観に配慮した美しい公共空間の創出を進めることとしている。

-無電柱化の対象となっている小川通を含むエリアは、「京都市市街地景観整備条例」(平成13年8月策定)により「上京小川歴史的景観保全修景地区」に指定され、京風町家で構成される町並み景観を後世に伝え、かつ魅力ある生業や生活が営めるよう地域固有の環境を維持又は増進することを目標としている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基 準 年 度	目標 値	目 標 年 度
小川通の歩行者数	人	事業区域のメインストリートである小川通の歩行者数	観光資源の賑わいを表す指標として、小川通の歩行者数の増加を図る。	424 人	平成23年度	500 人	平成28年度
市民の景観に対する満足度	%	小川通周辺住民及び通行利用者を対象とした景観に対する満足度調査(アンケート調査)	景観の向上が図れたかどうかを表す指標として、地域住民及び通行利用者の景観に対する満足度を向上させる。	4 %	平成23年度	65%	平成28年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針1「安心安全で美しいまちづくり」	
・歩行者が安心して円滑にまちなみ散策を楽しめる環境づくりのため、小川通の無電柱化事業、広場の整備を行う。	● 高質空間形成施設 ・ 電線類地下埋設設(要請者負担方式)【基幹事業】
・夜間における通行の支障に対する不安を解消するため道路照明灯を設置する。	● 地域創造支援事業 ・ 無電柱化整備(要請者負担方式)【提案事業】 ● 地域生活基盤施設 ・ 広場整備 フェンス 【基幹事業】 ● 高質空間形成施設 ・ 道路照明灯 【基幹事業】
整備方針2「歴史的文化的特性を生かしたまちづくり」	
・街並みの景観に調和した道路照明灯の設置や舗装の美化を行う。	● 高質空間形成施設 ・ 道路照明灯 【基幹事業】 ● 高質空間形成施設 ・ 美美化舗装 【基幹事業】
その他	
<input type="radio"/> 事業終了後の継続的なまちづくり方策について - 事業の事前・事後評価に対する市民の参加	
<input type="radio"/> 交付期間中の計画の管理について - 住民などに対する継続的な広報	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	328	交付限度額	131.2	国費率	0.4
---------	-----	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

基幹事業

事業 子事業 細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費		交付対象 事業費	
					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分	うち官負担分	うち民負担分
道路													
公園													
古都及び緑地保全事業													
河川													
下水道													
駐車場有効利用システム													
地域生活基盤施設													
高質空間形成施設													
高次都市施設													
既存建造物活用事業													
土地区画整理事業													
市街地再開発事業													
住宅街区整備事業													
地区再開発事業													
ハリアフリー環境整備促進事業													
優良建築物等整備事業													
住宅市街地 総合整備 事業	拠点開発型 沿道等整備型 密集住宅市街地整備型 耐震改修促進型	京都市 京都市	直 直	—	H28 H24	H28 H28	H28 H24	H28 H28	8 228	8 228	8 228	8 228	8 228
街なみ環境整備事業													
住宅地区改良事業等													
都心共同住宅供給事業													
公営住宅等整備													
都市再生住宅等整備													
防災街区整備事業													
合計										236	236	236	236

236 ...

提宗重

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業賞	交付期間内事業賞		交付対象事業賞
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分	
地域創造支援事業	無電柱化整備	一般市道 油小路通	京都市	直	L=250m	H26	H27	H26	H27	91	91	91	91
事業活用調査 まちづくり活動推進事業	歩行者飲交通量調査 地域住民満足度調査	— —	京都市 京都市	直 直 — —	— — H27 H28	H27 H27	H28 H28	H27 H27	H28 H28	0.5 0.4	0.5 0.4	0.5 0.4	0.5 0.4
合計										92	92	92	92

会計(A/B) 32日

(参考) 開通事業

都市再生整備計画の区域

小川通周辺地区(京都府京都市)

面積

19 ha

区域

京都市上京区射場町, 本法寺前町, 宝鏡院東町, 禅昌院町, 妙顯寺前町, 下清藏口町, 挽木町, 百々町, 竹屋町, 扇町の全部

